

## 論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Non-specific psychological distress in women undergoing noninvasive prenatal testing because of advanced maternal age.

和文タイトル: 高齢妊娠で無侵襲的出生前検査を受検した妊婦の非特異的メンタルストレスの検討

ユニットセンター(UC)等名: 愛知UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Prenatal Diagnosis

年: 2014 月: 11 巻: 34 頁: 1055-1060

筆頭著者名: 鈴木伸宏

所属UC名: 愛知UC

目的:

高齢妊娠は年々増加傾向であり、国内で約1/4を占める。今回、高齢妊婦を対象とし、無侵襲的出生前検査(NIPT)を受検した妊婦と非受検妊婦においてメンタルストレスなどについて評価し、出生前検査にあたり、何が必要かを調べることを目的とした。

方法:

施設内倫理委員会承認のもとで、地域内3992名の環境省エコチル調査参加妊婦(対照群)と出生前検査の遺伝カウンセリングののちNIPTを実施した569名に対し、年齢、自分が考えているダウン症児の出産確率、K6ストレススコア(神経過敏に感じた、絶望的だと感じたなど6項目)を自記式質問票により調査した。スコアにより定量化したメンタルストレスについて比較検討し、統計学的解析を実施した。

結果:

出産時35歳以上でNIPTを実施した妊婦505名で解析した結果、うち9.1%はK6スコア高値(10点以上)であり、メンタルストレスが高いと考えられた。年齢と週数を一致させた1010名の妊婦対象群と比較検討したところ、NIPT実施妊婦のK6スコアはより高値を示した。多重応答分析では、ダウン症児の出産確率を過大評価している妊婦やNIPT実施の意思決定が夫のみである妊婦にK6スコア高値者が多い傾向がみられた。

考察:(研究の限界を含める)

ダウン症児の確率を的確に把握し、NIPTを受けるかを夫婦とその家族でよく相談している場合、高齢妊娠であってもメンタルストレスが少ないことがわかり、NIPT実施前には医療者側より十分な情報提供した上で、夫婦へ遺伝カウンセリングを実施することが大切であることが示唆された。

結論:

NIPTを受検した妊婦は、検査前から非特異的メンタルストレスを受けており、検査前カウンセリングが重要である。NIPTの実施前に夫婦や家族で相談しておくことが、大切であることが示唆された。